



上ノ国町【北海道】 歴史文化基本構想

■ 策定年度：平成30年3月 ■ 人口：5,000人 ■ 面積：548km²
■ 担当課：上ノ国町教育委員会文化財グループ（平成30年3月現在）



本構想では、町内に点在する歴史文化を集めるにあたり、保育所・小学校・中学校・高校・大学・一般を対象としたアンケート調査を実施した。その結果、指定・未指定文化財を含む608件の歴史文化が集まり、上ノ国町らしい7つの文化財類型に大別することができた。また、集計した歴史文化を親しみやすい「マイ文化財」という名称とし、3つの歴史文化の特徴を見出すことができた。

5 歴史文化を表す つのキーワード

ヤマセ、日本海交易、神の国、
アイヌ民族と和人、農業と漁業

課題

- ・未指定文化財の保存活用が積極的に行われていない
- ・人口減少による歴史文化に関わる人たちの不足

保存活用方針

- ・拠点施設と、その周辺の未指定文化財を関連付けた取組み
- ・地域住民、行政、研究機関との共働体制づくり

保存活用のための取り組み

アユを活かした体験学習や山菜などの郷土料理の継承・活用

山方面に位置する湯ノ岱地区は、町内外から多くの人たちがアユ釣りや山菜採りに訪れている。同地区は、町の中心部から離れていることもあり、これらの活動はあまり知られていない。アユや山菜を活かした体験学習を実施することで地域の文化の啓発と、地元へ伝わる郷土料理の継承を行う。



アイヌ文化と和人文化についての情報発信

上ノ国町では、室町時代にアイヌ民族と和人が混住していたことが勝山館跡（国史跡）の発掘調査で明らかになっている。他で事例の少ないアイヌ民族と和人の混住の歴史を情報発信することで、教育・観光分野などに活用する。



観光ガイドの育成・活動支援

町内には、歴史ガイドを中心とした団体があるものの、担い手不足のため、観光客に対して十分な対応ができていない状況にある。そのため、ガイド団体と行政が連携した取組みを実践することで、それらの課題を解消し、円滑な推進を目指す。



道の駅「上ノ国もんじゅ」周辺のジオサイトの整備・活用

道の駅「上ノ国もんじゅ」の周辺では、今から12万年前の海成段丘や数千万年前の海底火山によって生じた水中火山岩の枕状溶岩やハイアロクラスタイトを観察することができる。観光客が多く訪れて拠点となる道の駅周辺に地域のマイ文化財を周知する説明板や標識の設置を行う。



◆ 関連文化財群



本構想では、「上ノ国町特有の地域性と文化を物語るマイ文化財のまとめり」を関連文化財群として捉えた。現段階では、3つの関連文化財群を考え、これらを参考にして歴史文化保存活用区域と保存活用方針の検討を行った。

ストーリー

- 1 関連文化財群1
「天の川が育む 〴〵風の国、」
- 2 関連文化財群2
「はじまりの地 〴〵神の国、」
- 3 関連文化財群3
「せんずけの海 〴〵渡りの国、」

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

① 未指定文化財の掘り起し

今回の策定事業によって、608点の指定・未指定文化財を集めることができた。これらの中には、地域でその価値が認められているにもかかわらず、近年の人口減少によって継承の危機に直面する文化財の存在が確認された。町内の文化財の現状を把握することで、将来的な継承と活用の取組みを推進することが可能になった。



② 関連文化財の保存活用

関連文化財群の設定により各地区の特色が明確化し、点在するマイ文化財を指定・未指定に関わらず面的に保存活用する機運が高まった。また、マイ文化財の価値の創出が行われることで、地域の祭典や行事などが活性化し、マイ文化財を活用した「まちづくり」に反映することができるようになった。



③ 体制強化による構想の推進

従来の行政主導の取組みを脱却し、官学民を含めた三位一体で地域のマイ文化財を保存活用する「神の国ファンクラブ」の創設の機運が高まった。さらに、行政内の企画・観光・産業・建築などの部署と連携を密にすることで、様々な角度からスポットを当てた未指定文化財の幅のある保存活用を目指す動きが見られるようになった。

